

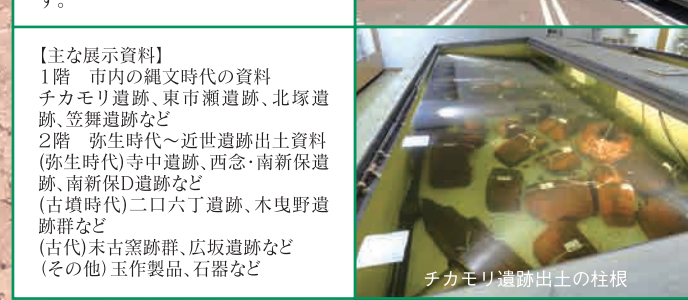
23 津幡町ふるさと歴史館・れきしる

津幡町の歴史について、縄文時代、弥生時代、津幡町加茂遺跡、加賀部跡、但利御堂など、近世から近代、昭和の風景、民俗資料などの常設展示コーナーがあります。歴史館は町史跡の津幡城にあり、周辺の散策も可能になっています。



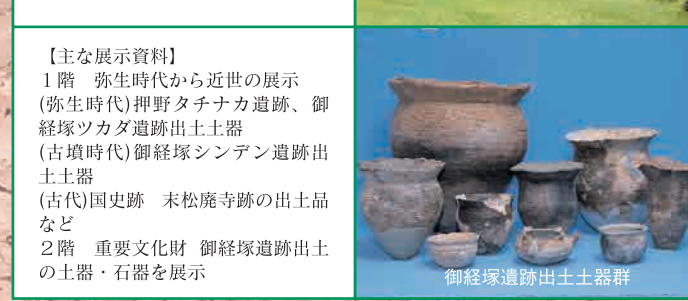
25 金沢市新保本町埋蔵文化財収蔵庫

金沢市新保本町埋蔵文化財収蔵庫は、チカモリ遺跡から出土した大量の巨大な柱根などの出土品を保存するため、昭和61年に建設された施設です。1階は、チカモリ遺跡出土の柱根を保存するための水槽と金沢市内の縄文時代の資料を展示し、2階は弥生時代から江戸時代の遺物が展示されています。



27 野々市市ふるさと歴史館

御経塚遺跡から出土した重要文化財「石川県御経塚遺跡出土品」や末松庵寺跡をはじめ、市内の縄文時代～中世の遺跡や遺物の展示を中心とし、加賀守護富樫氏の関係資料や市有形文化財に指定されている文書などを紹介しています。また、館内では土器づくりや勾玉づくりなどが体験できます。



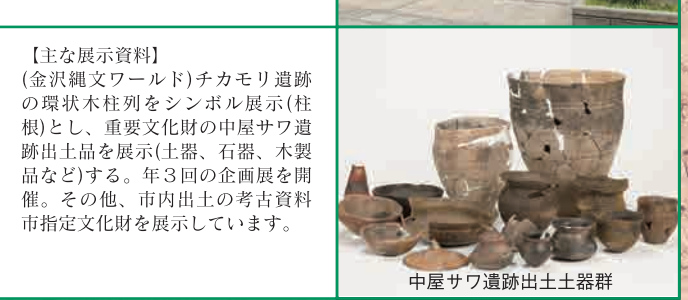
24 内灘町歴史民俗資料館・風と砂の館

内灘町の歴史について、粟ヶ崎遺跡、内灘町、文化財、民具、漁具、出土品のほか、毎年内灘海岸で開催される「世界の風の祭典」にちなんだ様々な風などを、各コーナーに分けて紹介しています。



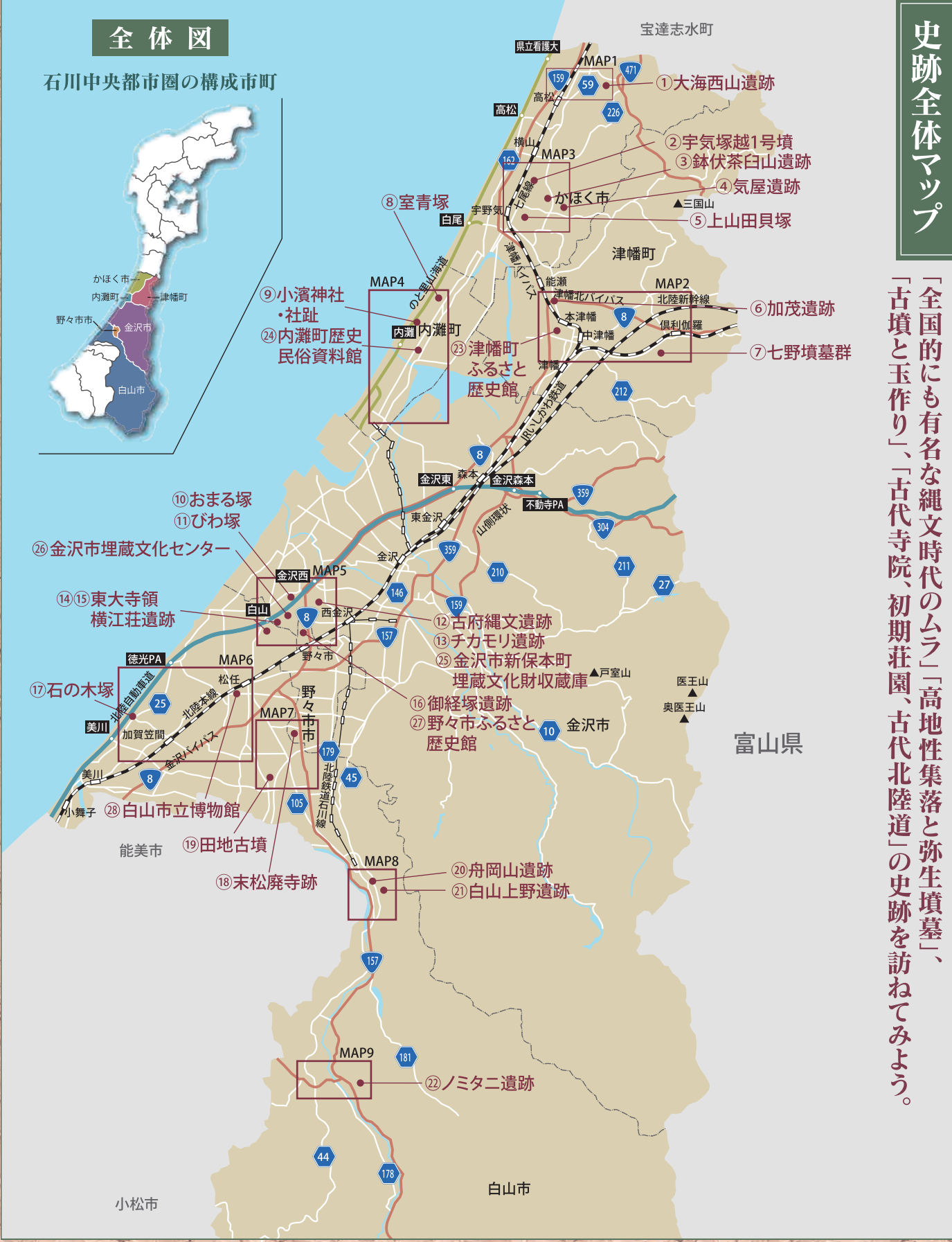
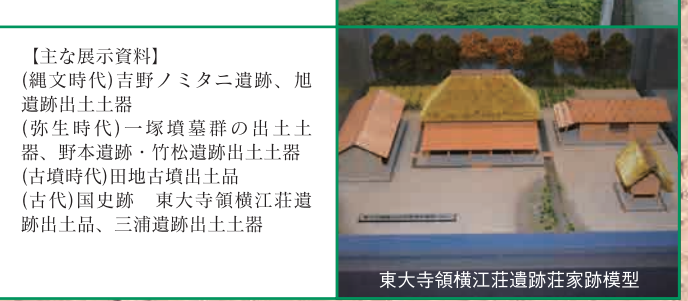
26 金沢市埋蔵文化財センター(金沢縄文ワールド)

金沢市埋蔵文化財センターは、平成9年に出土品の整理・記録作業を行う施設として開設しました。来館者が作業工程や出土品を見学することが出来ます。平成27年にはチカモリ遺跡の柱根や重要文化財の中屋サワ遺跡出土品を紹介する金沢縄文ワールドが併設されました。



28 白山市立博物館

白山市の歴史・文化を紹介する総合博物館です。2階常設展示では、昭和45年に横江町地で発見された東大寺領横江荘遺跡荘家の荘家の一部が復元されているほか、ジオラマや出土遺物で遺跡の紹介をしております。



史跡全体マップ

「全国的にも有名な縄文時代のムラ」「高地性集落と弥生墳墓」、「古墳と玉作り」、「古代寺院 初期荘園、古代北陸道」の史跡を訪ねてみよう。

※本書は、石川中央都市圏(金沢市・白山市・かほく市・野々市市・津幡町・内灘町)が地域資源の魅力向上に向けて、圏域内の歴史資産の保存活用に関連して取り組む事業で作成したものである。
【発行】金沢市(文化スポーツ局 文化財保護課)
【編集】石川中央都市圏歴史遺産活用連絡会 【協力】白山市・かほく市・野々市市・津幡町・内灘町
【お問い合わせ】金沢市埋蔵文化財センター 金沢市上安原南60番 Tel: 076-269-2451 Fax: 076-269-2452

平成29年10月発行



各時代の史跡等のみどころ

縄文時代

「全国的にも有名な縄文時代のムラ」
圏域内には、⑤かほく市上山田貝塚、⑧金沢市チカモリ遺跡、⑩野々市市御経塚遺跡の3件の国史跡、御経塚遺跡出土品と金沢市中屋サワ遺跡出土品の2件の国重要文化財、その他県指定、市町指定の文化財が数多くあります。
特に、縄文時代晩期の資料は全国的にも有名で、御経塚遺跡の集落遺構、土器・石器などの出土品、チカモリ遺跡の環状木柱列やそれに使われた柱根、中屋サワ遺跡の木製品・漆製品などは第1級の資料で、当該期の北陸を代表するものです。
また、上山田貝塚は県内では数少ない貝塚遺跡で、出土土器は縄文時代中期中葉の標識資料になっています。人体装飾筒形土製品(母子像)は子を背負う土偶として有名です。
出土品の展示施設には津幡町②、内灘町④、金沢市⑧⑨、野々市市⑩、白山市⑪があります。



古墳時代

「古墳と玉作り」
圏域内には、前期古墳の②かほく市宇気塚遺跡1号墳、後期古墳の金沢市⑩おまる塚・⑪びわ塚、終末期古墳の⑩白山市田地古墳があります。
宇気塚遺跡1号墳などの前方後方墳は、平野部から海岸部にかけて墳丘部が削平されたものが金沢市戸水・藤江・南新保地区、野々市市御経塚地区などで発見され、前方後円墳に発展して出現します。
おまる塚・びわ塚は18基からなる北塚古墳群の中で、墳丘が削平されずに残された古墳です。
田地古墳は河原石積無袖式横穴式石室をもつ古墳で、7世紀に手取川扇状地の開発に開与した有力者の墓と考えられています。
玉作りは、当地域で弥生時代から各ムラで盛んに行われていたが、古墳時代になると特定支配層の宝器・祭器となる石製腕飾類(鍬形石、石剣、車輪石など)が手取川扇状地や金沢平野部の一部のムラで製作されていた。資料は金沢市⑨や白山市⑪に展示されています。
把手付鉢は、内灘砂丘に営まれた遺跡から出土した土器で、朝鮮半島南部の三国時代のものに由来する渡来系の土器と考えられています。



弥生時代

「高地性集落と弥生墳墓」
圏域内には、①かほく市大海西山遺跡、③同市鉢伏茶白山遺跡など弥生時代の後期から終末期の高地性集落と史跡指定されています。高地性集落と、平地からは比高差があつて水稲耕作には適さない山や丘陵にある集落です。両遺跡共に周囲に濠を巡らせて防御を固めており、当時、北陸地域で地域間・集団間の抗争があつたことを示しています。
弥生墳墓の史跡としては、⑦津幡町七野墳墓群があります。古墳墓と四隅突出型墳丘墓から墓域が構成されています。四隅突出型墳丘墓は中国山地で出現し、山陰地方で発展したものが弥生時代後期に北陸地方に及んでおり、石川県では白山市一塚墳墓群で初めて確認されました。
集落遺跡では金沢市西念・南新保遺跡(市指定文化財)、白山市一塚遺跡、野々市市御経塚ツカダ遺跡、津幡町北中条遺跡などが著名な遺跡で、各市町で出土品が展示されています。



古代

「古代寺院、初期荘園、古代北陸道」
圏域内には、⑭金沢市・⑮白山市東大寺領横江荘遺跡、⑯野々市市末松庵寺跡、⑰津幡町加茂遺跡などの3件の国指定史跡、⑩白山市市石の木塚の1件の県指定史跡があり、それぞれ特徴的な遺跡です。
東大寺領横江荘遺跡は北陸の初期荘園の実態を遺構と遺物(特に墨書土器や木簡などの文字資料が1級資料)の両面から明らかにした遺跡で、全国的に見ても貴重な資料です。
末松庵寺跡は北陸最古級の古代寺院の一つで塔や金堂の位置が確認されています。圏域内では唯一整備された寺院跡になります。加茂遺跡は、加賀部跡示しが出土したことで全国的に話題となった遺跡で、古代北陸道沿いに寺院(アリア、後所(駅家?)関連エリアなど多機能な遺跡であったことが分かっています。
石の木塚は希有な配石遺構で、手取川河口にあった古代北陸道の比来湊に近く、交通に關係する標石遺構と指摘されています。出土品の展示施設には津幡町②、金沢市⑧、白山市⑪などがあります。



※本文中の○数字は、史跡・展示施設の番号に一致。

史跡と詳細マップ

① 大海西山遺跡(県史跡)

かほく市夏栗ヲの部

通称「西山」と呼ばれる丘陵の上に位置する弥生時代後期の集落遺跡です。日本各地で戦乱が相次いだ時代を反映して、高台に居住して周囲には壕をめぐらせ、外敵からの攻撃に備えた「高地性集落」の遺跡として代表的なものです。



③ 鉢伏茶臼山遺跡(市史跡)

かほく市鉢伏ヲの部

石川泉水道用水供給事業に伴う工事の過程で遺跡の存在が明らかになり、昭和55年からの発掘調査によって弥生時代の竪穴建物や環壕が発見されました。弥生時代の高地性集落としては北陸地方で初の発見事例となりました。市内の同タイプの遺跡としては夏栗・瀬戸町の大海西山遺跡があります。



⑤ 上山田貝塚(国史跡)

かほく市上山田レの部、マの部

上山田貝塚は、縄文時代中期の貝塚で、北貝塚、南貝塚の2つの貝塚からなり、出土した土器は「上山田式土器」として同時代の標識土器となっています。南貝塚から人体装飾品形土製品(母子像)が出土しています。



② 宇気塚越1号墳(県史跡)

かほく市宇気いの部

宇気地内の「塚越」と呼ばれる高台に位置する小型の前方後方墳です。現在保存されている1号墳の他に4基の古墳が見つっています。古墳の後方には棺を納めたと思われる土坑があり、鉄器やガラス製の小玉が、後方の周溝部からは装飾壺や高杯などが出土しています。この地域の有力な人物が埋葬されていたと考えられます。



④ 気屋遺跡(県史跡)

かほく市気屋コの部

かほく市気屋地内の「高島」といわれる丘陵のなだらかな斜面にある、縄文時代後期の遺跡で、上山田貝塚の北約1,300mの場所にあります。出土した土器は「気屋式」と呼ばれ、北陸地方の縄文時代後期の標識土器となっています。



⑥ 加茂遺跡(国史跡)

津幡町字加茂口117

加茂遺跡は、日本最古のお趣書「加賀郡勝示札」が出土した遺跡として知られています。8世紀～10世紀初頭にかけての遺跡で、2本の瀬戸川が流れ、古代の国道といえる「北陸道能登支路」や倉庫群、「南寺」なる寺院跡、役所らしき建物など様々な遺構がみつかった地域の核となった集落跡と考えられます。



⑦ 七野墳墓群(町史跡)

津幡町字七野71番8

七野墳墓群は、平野を望む丘陵上に位置する弥生時代後期後半(約1,800年前)の墳墓の集合体です。二野墳は四隅が飛び出した四角い形をしており「四隅突出墓」と呼ばれ、山陰地方に多くみられる形であり、この地域と関係を考えるうえで重要な遺跡です。



⑨ 小濱神社・社趾(町史跡)

内灘町宮坂ぬ365番1

小濱神社は日本海の浸蝕による海岸線の後退や飛砂等のため社地の移転がしばしばあったと記録されています。おまる塚古墳の北西に位置する宇佐神社土器は「正徳寺前田神社」の社殿造営の遺跡ともいわれます。



⑪ びわ塚(市史跡)

金沢市南塚町118

びわ塚は古墳時代の墳墓です。南北に20m、東西に16m高さ1.5mの墳丘が残っており、円墳と考えられています。平成9年に区画整理事業に伴う発掘調査が古墳の周辺で行われ、周溝の一部が見つっています。



⑧ 室青塚(町史跡)

内灘町西荒屋へ61番

室青塚の起源は定かではありませんが、砂丘地の海岸に漂着した渤海や高句麗使節の死者を埋葬した墳墓の跡との説が有力です。江戸時代末期には、同遊する館を見取る場所、捕獲した鯨を懸霊した跡とも伝えられています。



⑩ おまる塚(市史跡)

金沢市北塚町152

おまる塚は古墳時代の墳墓です。南北に23m、東西に19m高さ4.5mの墳丘が残っており、円墳と考えられています。おまる塚古墳の北西に位置する宇佐神社土器は「正徳寺前田神社」の社殿造営の遺跡ともいわれます。



⑫ 古府縄文遺跡(市史跡)

金沢市古府町南851

古府遺跡は縄文時代中期のムラ跡です。昭和28年の発掘調査では、竪穴住居や石圍い井などが見つかかり、表面に剥き出しの土器が出土しました。この土器は「古府式土器」とよばれ、縄文時代を研究する上で貴重な資料となりました。



⑬ チカモリ遺跡(国史跡)

金沢市新保町5丁目47

チカモリ遺跡は縄文時代晩期のムラ跡です。昭和53年に発掘調査を行い、347本の柱根の部分が出土しました。円を囲って配置されていたので、建物の柱と考えられています。隣接地にはチカモリ遺跡や市内の他の遺跡の出土品を展示する埋蔵文化財収蔵庫があります。



⑮ 東大寺領横江莊遺跡(国史跡)

白山市横江町1726番21

東大寺領横江莊遺跡は奈良・平安時代の遺跡です。昭和45年に発掘調査が行われた結果、何棟もの竪穴建物跡と大量の土器が出土し、昭和47年・国の史跡に指定されました。また、既指定地の中間に見つかった、多数の倉を含む建物や寺院施設を含む範囲が平成28年10月に追加指定されました。



⑬ 石の木塚(県史跡)

白山市石立町174番

四角柱状に加工された炭灰岩製の立石5基を規則的に並べた石塚です。約12尺四方の方形プランの中心及四隅に1基ずつ配置し、四隅の立石は最も大きい中央立石のほぼ東西南北に位置しています。立石とも呼ばれ、地名発祥の基となっています。



⑬ 東大寺領横江莊遺跡(国史跡)

金沢市上荒屋7丁目73番1

東大寺領横江莊遺跡(金沢市上荒屋遺跡)は奈良・平安時代の遺跡です。昭和63年に発掘調査を行い、建物跡や、運河の跡などが見つかりました。また、「東庄」と思われた宗遺器がたくさん出土し、白山市の横江荘と関連する施設であることが明らかとなり、平成18年に追加指定されました。



⑬ 御経塚遺跡(国史跡)

野々市市御経塚1丁目549

御経塚遺跡は縄文時代後期中葉より晩期にかけて営まれた大きなムラの遺跡です。昭和29年に発見され、これまで複数回の発掘調査が実施され、竪穴住居、石圍井、配石遺構の跡などが見つかりました。現在、遺跡の中心部は公園となり復元住居が建てられています。



⑬ 末松廃寺跡(国史跡)

野々市市末松2丁目

末松廃寺跡は7世紀後半に建立された北陸最古級の寺院です。発掘調査の結果、金堂を西、塔を東に配置した法起寺式の伽藍であることがわかりました。塔の規模は他の寺院に比べて大きく七重塔と推定されています。金堂の屋根には瓦が敷かれ、能美市の湯屋宮跡で焼かれたことがわかっています。



⑬ 田地古墳(市史跡)

白山市田地町37番地

昭和45年1月に、市道建設中に確認された後期古墳(6世紀末～7世紀初頭)であり、手取川扇状地中央部では初めての発見でした。河原石で積み上げた横穴式石室をもち、土器や石器が数多く出土しました。



⑬ 白山上野遺跡(市史跡)

白山市白山町字73番地

現在の石川県林業試験場樹木公園の中に所在する縄文中期中葉後半の遺跡です。「コ」の字状に組んだ石垣の跡が確認され、土器や石器が数多く出土しました。また土器を造るために用いた伏置と呼ばれるものも発見されました。



⑬ 舟岡山遺跡(市史跡)

白山市八幡町茂142番地

現在の白山青年の家の敷地内にある縄文時代中期の集落遺跡です。舟岡山遺跡は石川県内の縄文時代の遺跡で最も早く発見されました。発掘調査により3基の竪穴建物が発見され、土器や石器が数多く出土しました。



⑬ ノミタニ遺跡(市史跡)

白山市吉野ヶ95番地

縄文時代中期後半から後期前半までの遺跡です。発掘調査によって確認された竪穴建物のなかには、坪を二つに区切った複式複室をもつものがありました。また土器を造るために用いた伏置と呼ばれるものも発見されました。

